

1. **目的**：生徒相互の主体性を尊び、創造性と協調性を向上させ、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づける。  
また、高校生の豊かな創造性を育み、芸術的感性の向上をめざす。  
あわせて情報発信としての校内放送活動の発展をはかる。

## 2. 主催・主管

### 【アンデパンダン大会】

主催：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 (<http://kanakousiken.nomaki.jp/>)

主管：神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会

後援：神奈川県高等学校文化連盟（申請中）

## 3. 日時

2006年11月12日(日)

- ・役員校 控室集合 8:30 (会場準備8:40~9:00)
- ・委員校 控室集合 8:30 (会場準備8:40~9:00)
- ・審査員 控室集合 9:00
- ・受付 9:00~ 9:30
- (・総文祭部門受付 9:00~ 9:40)
- ・作品提出 9:20~10:00
- ・各会場審査基準打合わせ 9:50~10:00
- ・審査開始 10:00~16:00
- ・閉会式 16:00~17:00

## 4. 会場：神奈川県立横須賀高等学校（上履き必要）

## 5. 参加資格

2006年10月現在、神奈川県高等学校視聴覚教育研究会加盟校に在学し、校内放送に携わっている放送部・委員会の生徒であること。

ただし、参加できるのは1、2年生とし、審査員説明会と大会当日、審査員を出さない学校は参加資格がないものとする。審査員は1名以上とし、3年生でもよい。

※DJ部門のみ3年生の参加も可とする。

## 6. 部門・参加本数・参加費用

### 【アンデパンダン大会】

	アナ	朗読	放送劇	映像	生DJ
参加本数	5人	5人	1本	1本	1本
参加費用	1作品／1本毎 300円				0円

## 7. 表彰

アナウンス・朗読：各会場1～6位

番組制作：各会場1～4位

## 2-2 8. 審査

- ①参加校各1名以上の生徒が審査にあたる。
- ②審査員は次の注意を守ること。
  - ☆部長（委員長）もしくはそれに準じる者であること。
  - ☆大会当日中の交代は不可。
  - ☆10月7日（土）の審査員説明会に出席すること。
  - ☆3年生も可

## 9. 審査基準、方法

- ①高校生として望ましいアナウンスメント、朗読、番組であること。
- ②別紙、「審査の観点」に基づき、審査を行なう。
- ③規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。
- ④詳細については、審査員および大会実行委員長の協議による。  
最終判断は、大会実行委員長の責任において行なう。

## 10. 参加申込および審査員説明会

- ①期日：2006年10月7日（土）
- ②会場：日本大学藤沢高等学校
- ③時間：参加申込 14:00～14:30  
審査員説明会 14:30～16:30
- ④来場者：参加申込に1名  
審査員説明会に1名以上（審査員本人） 計2名以上
- ⑤提出物：申込用紙・領収書（要 校長印・顧問印）  
出場カード  
審査部門希望カード（アンデパンダン大会出場校）  
参加費（アンデパンダン大会出場校）

注1）郵送などによる参加申込は一切受け付けない。

注2）審査員説明会への出席者は審査員本人であること。

正当な理由により出席できない場合は、必ず代理の者が当日出席すること。

FAXによる申し込みは認めない。

注3）提出物については、くれぐれも間違いや忘れ物のないよう、慎重に準備し、顧問の確認を受けること。

## 11. 大会当日の受付（上履き必要）

- ①受付 9:00～9:30  
受付でプログラムを受け取り、審査会場・番号を確認して、封筒・スクリプト（2部）・MD・mini-DVテープに記入する。番組部門は著作権処理受付で、支払い等を必ずする。
- ②封筒提出 9:20～10:00（時間厳守）  
提出が遅れると順位算定の算出外となります  
記入を終えた作品封筒を、各審査会場に各自持参し、審査補助係に提出する。

## 12. アンデパンダン大会諸規定

### A アナウンス部門諸規定

- ①内容：自校のニュースや解説など、高校生活中から生まれた若者の声を内容とし、原稿は自作したものに限る。原稿と実際のアナウンスに相違があってはならない。
- ②自校の校内放送に使用する内容でなければならない
- ③時間：1分10秒～1分30秒。  
番号、氏名を含む。

- ④ 計時：最初の声から最後の声までとする。  
但し、キューサイン直後から読み始めるようにすること。

## B 朗読部門諸規定

- ① 内容：次の5作品から1編を選び、自己の表現したい部分をきめて朗読する。  
作品の脚色は認めない。また、原稿と実際の朗読に相違があってはならない。

- |                        |             |                       |
|------------------------|-------------|-----------------------|
| 1) 「三四郎」               | 夏目 漱石 著     | (角川文庫)                |
| 2) 「鞆に本だけつめこんで」        | 群 ようこ 著     | (新潮文庫)                |
| 3) 「リセット」              | 北村 薫 著      | (新潮文庫)                |
| 4) 「阿Q正伝・狂人日記」より「阿Q正伝」 | 魯迅 著 竹内 好 訳 | (岩波文庫『2006年新版を使用する事』) |
| 5) 「五重塔」               | 幸田 露伴 著     |                       |
- ( ) 内の出版社に限る。 2)、3) については収録作品のいずれを選んでも良い。  
4) は岩波文庫の2006年新版を使用する事と指定されている。  
5) は現代語訳不可、出版社は問わない。

- ② 時間：1分30秒～2分00秒。  
番号、氏名、作者名、作品名を含む。
- ③ 計時：最初の声から最後の声までとする。  
但し、キューサイン直後から読み始めるようにすること。

## C 番組制作部門諸規定

- ① 種類と時間：
- |       |   |              |
|-------|---|--------------|
| 生 D J | : | 9分20秒～10分00秒 |
| 放送劇   | : | 15分00秒以内     |
| 映像    | : | 8分00秒以内      |
- ② 内容：  
生徒自らの創作に限る。  
映像部門の本年度のテーマは『高校生から見た理想の社会像』とする。
- ③ 制作者：  
3年生の協力も事情によっては認めるが、その場合はスクリプトの末尾に学年・氏名・係(役)を明記すること。
- ④ 使用メディア：
- ・生DJ部門
    - ア) 音源はCDのみとする。(音源を複製したCD-Rの使用は認めない)
    - イ) ただし、効果音など、自作の音源については、**MD(標準モード)**での使用を認める。
  - ※ 注意) オリジナル曲以外の音楽を演奏したものを録音し、音源として使用した場合、その楽曲の楽譜を所有していること。
- ・放送劇部門
- ア) **MD標準モード**を使用すること。
  - イ) 再生エラーがあるので、完成後、複数の機械で再生してテストすること。  
MDは1作品をひとつのファイルでまとめ、簡単に作品時間がわかるようにする。  
編集を数回行うとマージできなくなることがある。その場合は他のMDにダビングして再編集する。  
再生はMD先頭の1曲目のみを再生する。  
計測は、1曲目の時間を計測する。
- ・映像部門
- ア) **MiniDVテープ**を使用すること。テープ速度は**SPモード**とする。

⑤録音・再生：

・放送劇部門

- ア) 左右両チャンネルに同じ音を録音する。
- イ) 作品前後の無音部分は切り詰め、作品時間がわかるようにする。
- ウ) 審査は、モノラル、で再生して行なう。
- エ) 録音は最後に「制作は〇〇高等学校放送部（委員会）でした」というクレジットコールを入れる。

・映像部門

- ア) 番組の最初と終わりには、テストパターンを15秒間入れること。テストパターンについては、第53回NHK杯全国高校放送コンテストの様式を参考にすること。各校自作のテストパターン（静止画）の使用も可とする。
- イ) 再生モードはSPモードのみとする。

⑥計時：

・放送劇部門

- ア) 計時は、第1音目から計時を行う。
- イ) クレジットコール終了とともに再生を終える。その後どんな音が入っていても審査の対象とはならない。

・映像部門

- ア) 計時は最初のテストパターンが終了した時点から開始する。計時終了は次のテストパターンが出た時点とする。

⑦ラベル：

- ア) MDケースやMiniDVケースに別紙16の「作品票」を貼ること。
- イ) MDやMiniDV本体の表面には、部門名・会場名（当日わかる）・学校名（略称可）を明記した紙を貼ること。

⑧著作権処理について：18 著作権処理についてをよく読んで、適切に処理すること。

## 2-5 生DJ番組部門諸規定

### ①種類と時間

生DJ：10分00秒以内（セッティング時間を含む）

### ②内容：生徒自らの創作に限る。

最低、異なる3曲以上の楽曲を使用すること。

### ③制作者・出場者：

4名までの出場を認める。3年生の参加も可とする。

ただし、当日アナウンス・朗読部門に出場する生徒は出場できない。

### ④計時：生DJ 審査補助係のコールに続く審査員のキューにより計時をスタートさせ、

出場校はセッティングを開始し、そのまま番組を始める。

最後のクレジットコール（例：「担当は・・・高校放送部でした」）

終了時に計時をストップする。

### ⑤規格：

i 音源：CDのみ ステレオ再生

（複製音源（CD-Rなど）使用不可）

ii 使用機材：CDデッキ3台・MD1台（自作の効果音のみに使用可能。複製音源の使用は認めない）・マイク2本・ミキサー1台

### ⑥リハーサル：

別室において同じ機材を用いて10分以内で行うことができる。

## 1.4. スクリプトに関する規定

①NHK大会で使用した原稿用紙を使用する。

②作品1本（1人）についてアナウンス・朗読は2部、番組は1部提出する。

③第53回NHK杯全国高校放送コンテストの様式規定に従って作成する。

☆ アナウンス・朗読→様式規定1-1 ☆番組→様式規定2-1・2・3・4・5

④スクリプトとMD、及びJASRAC申請用紙指定枚数を角3の封筒に入れ、封筒の表にはスクリプトの表紙と同様の記載をする。

⑤スクリプト表紙（及び封筒表書）の見本

### <アナウンス、朗読>

作品名	作者名	氏名	学校名	朗読部門
こころ	夏目漱石	宮田輝	県立◎△高等学校	[A]会場 [13]番

### <番組>

制作代表者	再生時間	タイトル	学校名	映像部門
神奈川次郎	9分40秒	ああ青春	県立神奈川高等学校	[B]会場 [22]番

注意1 アナウンス部門は、作者名・作品名は不要。

注意2 [ ]のなかは、大会当日、プログラムを見て記入する。

## 2-6

### 15. その他

上記以外の規定については、第53回NHK杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会の実施要領に準じる。

### 16. 諸注意

- ① 会場校は、上履が必要なので必ず持参すること。
- ② 閉会式終了後、スクリプト・MD等を返却するので必ず受け取ること。
- ③ 大会当日の運営に関することは、すべて部長等、部の責任者を通して本部に申し出ること。
- ④ ゴミは会場校に残さず各自で自宅に持ち帰ること。